資料3

北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第２回 介護保険に関する会議

（3）施設整備計画の基本方針

第10期介護保険事業計画（施設整備計画）の基本方針

1. 施設整備の基本的な考え方

● 団塊の世代が85歳以上となる2035年、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年を見据え、高齢化の進展や市民ニーズ等を的確に捉え、中長期的な介護サービスの見込量を推計する。

● 医療・介護ニーズを抱える85歳以上の高齢者や認知症高齢者、ひとり暮らし高齢者の増加に加え、要介護状態となっても、介護サービスを利用しながら住み慣れた地域で暮らし続けたいと希望する高齢者が多いことを勘案し、地域の実情やニーズに応じた介護サービス提供体制の確保に努める。

＜施設整備にあたっての考え方＞
① 既存施設の整備状況や待機者の状況、医療・介護連携の状況等を踏まえ、地域におけるサービスの需給バランスとともに、給付と負担のバランスにも十分留意する。
② 有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅についても、入居状況等を把握し、将来の介護需要を見据えながら適切に対応する。
③ 将来にわたり安定的な介護サービスを提供できるよう、介護事業所の運営の安定化や、介護人材の動向を踏まえ、計画的に進める。

2. 既存施設の状況（施設・入居系サービス）

（R8. 4. 1時点）

施設種別		定員	入所者数	入所率
介護老人福祉施設（特養）※地密を含む		5, 603人	5, 009人	89. 4%
介護老人保健施設（老健）		2, 770人	2, 379人	85. 9%
介護医療院		644人	597人	92. 7%
特定（介護付有料老人ホーム）		2, 667人	2, 374人	89. 0%
特定（ケアハウス）		340人	300人	88. 2%
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）		2, 262人	2, 134人	94. 3%
（参考）	住宅型有料老人ホーム	6, 351人	—	—
	（　）内は、調査協力施設の回答数	（4, 712人）	（3, 901人）	（82. 8%）
	サービス付き高齢者住宅	1, 501人	—	—
	（　）内は、調査協力施設の回答数	（884人）	（798人）	（90. 3%）

3. 整備目標設定の考え方①

■　施設・入居系サービス

（1）介護保険施設（特養・老健・介護医療院）の総定員数は、維持することを基本とする。
（2）中重度者や認知症高齢者、医療的ニーズを有する方への対応を勘案する。
（3）既存施設等の老朽化等により廃止する事業所の状況を考慮する。
（4）介護サービス事業所の安定的な運営に留意する。

サービス種別	整備方針（案）	理由
○介護老人福祉施設（特養）	短期入所生活介護からの転換により整備する。	・既存施設の老朽化等により廃止する事業所の状況を考慮する。 ・既存施設を有効活用する。
○介護老人保健施設（老健）	新たな整備は行わない。	・これまでの整備により利用率は安定している。
○介護医療院	医療療養病床等からの転換により整備する。	・特養等で対応が難しい医療・介護ニーズを必要とする高齢者を支える役割として重要である。 ・医療機関の転換意向調査結果を踏まえる。
○特定施設入居者生活介護（介護付有料老人ホーム）	新たな整備は行わない。	・登録制への移行に係る影響を確認する必要がある。
○認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	新設・増床により整備する。	・今後も認知症高齢者の増加が見込まれる。 ・既存施設の老朽化等により廃止する事業所の状況を考慮する。